渦の音クラブたより(2013年9月号)

事務局長:賀川浩一(昭 54 年卒)、 事務局:三橋浩志・稔子(昭 59 年卒)
HP: http://uzunooto.jp/　　メール : info@uzunooto.jp
郵便: 〒142-0061 東京都品川区小山台 2-5-5-407、 ファックス: 03-3716-4220

1．平成 25 年度の「渦の音クラブの集い」は 11 月 16 日（土）に、作家の山口敏太郎さん（城南高　昭和 60 年卒）を講師に迎え開催

今年の「渦の音クラブの集い(総会＆懇親会)」は、以下の通り開催されます。**今年は、土曜日の開催**です。同封の案内をご覧の上、振替用紙にて参加費・年会費をお支払いのうえ、ふるってご参加下さい。

◆平成25年度「渦の音クラブの集い（第38回総会・懇親会）」◆

日時：平成25年11月16日（土）　12時より

次第(予定):　12:00－12:20　総会
12:20－13:20　講演会
13:30－15:30　懇親会

会場:ホテル・ニュー・オータニ(紀尾井町)内　レストラン「ガンシップ」(ガーデンコート　4階)

(講演会の講師)

山口敏太郎氏（作家、城南高　昭和60年卒）

演題：「徳島を復活させる怪物・妖怪を使った町おこし」

1966年、徳島県生まれ。城南高校1985年卒。本名は間 敏幸(はざま としゆき)氏。1996年に「妖怪進化論」で学研『ムー』のミステリーコンテスト優秀賞を受賞。その後、作家として活躍中。著作115冊。代表作『是非に及ばず(青林堂)』『前田慶次郎(ぶんか社)』『日本の未知生物案内(笠倉出版)』など。テレビ・ラジオ出演400本以上、読売テレビ「たかじんのそこまで言って委員会」、「クギズケ」、abc「探偵ナイトスクープ」、NHK「日めくりカレンダー」、テレビ東京「おはスタ」、など多数出演中。放送大学院で修士号を取得、「クリプトツーリズム」という伝説を通じた町おこしも実施、岐阜「恐怖の細道」、徳島「幻獣屋敷」など。また、徳島のタウン誌『タウトク』に「徳島の不思議百物語」を連載中。

幹事学年:昭和59年卒

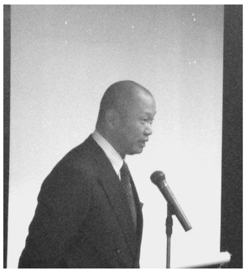
2．昨年（平成 24 年度）の「渦の音クラブの集い」の様子

既にホームページ等でご報告済ですが、平成 24 年度・第 37 回「渦の音クラブ(関東地区同窓会)のつどい(総会、講演会、懇親会)」は、平成 24 年 11 月 11 日(日)に、ホテルニューオータニに 80 人を超える参加者を集めて盛大に開催されました。

(1)総会

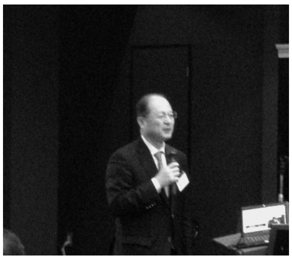
総会では、澤田会長(昭和 49 年卒)の開会挨拶、賀川事務局長(昭和 54 年卒)による決算、事業計画、予算に関する事務局提案があり、原案通り承認されました。ご来賓として、石堂真道校長先生

（昭和 46 年卒）【写真1】、森恭仁硬式野球部監督・教諭（昭和 61 年卒）【写真2】、木村清志同窓会長（昭和 48 年卒）【写真3】、高木純一郎同窓会事務局長（昭和 38 年卒）に徳島からご臨席賜りました。また、徳島県東京本部の小西副本部長（昭和 56 年卒）から「ふるさと納税」ついてご説明を頂きました【写真 4】。



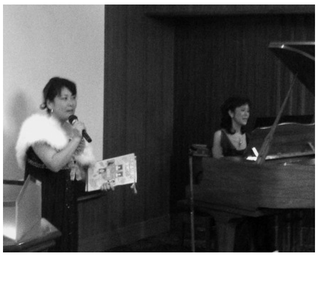
（2）講演会

引き続き行われた講演会は、上勝町の株式会社いろどりの横石知二社長を講師に迎え、「人生いろどり～もうヒトハナ咲かそう～」と題したご講演を頂きました。「つまもの」と呼ばれる「葉っぱビジネス」のご苦労と仕事の楽しさについて、徳島弁を交えて、時には楽しく、時にはしんみりとお話し頂きました。仕事への熱意、組織のあり方を熱く語る横石社長のお話に、参加者一同引き込まれました【写真 5】【写真 6】【写真 7】。



（3）懇親会

会場を移して、幹事学年の戸井真一さん(昭和 58 年卒) の司会で始まった懇親会は、参加者最年少の姫田和幸氏（平成 11 年卒）に乾杯の挨拶でスタートしました【写真 8】。懇親会では、横石社長にもご参加頂き、会員の交流を深めました【写真 9】【写真 10】。森監督を囲んでの記念撮影など、会員相互の交流も深まりました【写真 11】【写真 12】。徳島県東京本部の泉克典係長（昭和 62 年卒）からは、徳島県の現状をスライドでご紹介頂きました【写真 13】。また、二期会準会員の河口三千代さん（昭和 58 年卒）によるミニコンサートでは、様々なジャンルの歌をお聴きすることが出来ました【写真 14】。



宴たけなわとなったところで、最後に「旧制徳島中学校歌」、「城南高校校歌」を参加者全員で斉唱しました【写真 12】。幹事挨拶となり【写真 13】、平成 24 年度の「渦の音クラブの集い」は成功裏に終了しました。

なお、「渦の音クラブのつどい」の様子は、11 月 14 日の徳島新聞の社会面（26 面）の「東京通信」、11 月 15 日の徳島新聞のコラム「鳴潮」に紹介されました。

東京通信

母校の思い出語る

渦の音クラブが集い

旧制徳島中学・城南高校の関東地区同窓会「渦の音クラブ」（澤田達男会長）の第37回の集いが11日、東京都千代田区のホテルニューオータニで開かれた。

首都圏在住の卒業生ら85人が出席し、石堂真道・城南高校長が「城南ももうすぐ創立140年になる。サポートをよろしく」とあいさつ。2011年春の選抜高校野球大会に出場した野球部の森恭仁監督が「甲子園で報徳学園に勝ち、夢のような時間を味わった。もう一度甲子園に行けるように頑張りたい」と話した。

この後、葉っぱビジネスで知られる上勝町の第三セクター「いろどり」の横石知二社長が講演。懇親会では、母校の思い出話に花を咲かせ、同窓生のソプラノ歌手、河口三千代さんのミニコンサートも楽しんだ。最後に旧制徳中と城南高の校歌を斉唱した。（玉田友昭）

渦の音クラブの集いで談笑する参加者ら＝東京都千代田区のホテルニューオータニ

徳島新聞 2012 年 11 月 14 日（26 面）

鳴潮

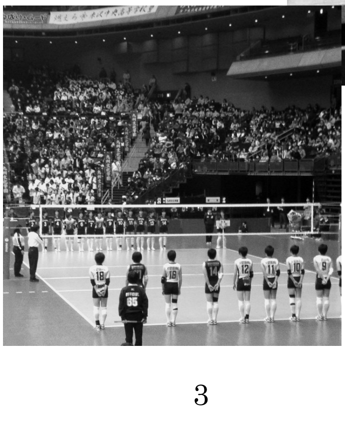
〈眉山の若葉陽に照り映えて／阿南の空の明るき極み〉。東京都内のホテルで開かれた旧制徳島中学・城南高校同窓会「渦の音クラブの集い」。旧友と斉唱した校歌は格別だった▼卒業から35年、かつての少女は品のいい中年のお母さんになっていて、お互いの姿の変わりぶりに、驚くやら、吹き出すやら。関東で暮らした歳月が、その言葉を東京風に変えてはいたが、話が盛り上がるとつい、「若かったけんなあ」と徳島弁が出て、青春時代にタイムスリップした▼懇親会に先立つ総会では、葉っぱのビジネスで知られる上勝町のいろどりの社長、横石知二さんが講演。明日の見えなかった過疎の町が彩事業でよみがえり、住民が自信と誇りを取り戻すまでの苦難の道を語った。彩にかけた横石さんの一念は胸を打った▼懇親会では会社社長、弁護士、大学教授ら首都圏で活躍する卒業生が、思い出話に花を咲かせた。旧制徳中校歌の冒頭は〈阿州の英才育むところ／栄えある歴史は流れて尽きず〉。140年近い伝統の中、輩出した人材は数え切れない。彼らも、話せば、それぞれに試練を乗り越えてきたようだった▼城南OBの県職員が徳島の近況を説明し、ふるさと納税をPRすると、場が和んだ。徳島も人口が減り未来が案じられる状況だ。古里のために「阿州の英才」の力を結集してもらえれば、こんなにありがたいことはない。

2012・11・15

徳島新聞 2012 年 11 月 15 日（1 面）

３．城南高校女子バレーボール部「春高バレー」応援報告

城南高校女子バレーボール部は、2013 年お正月にさいたまスーパーアリーナで開催された「第 65 回全日本高校選手権（春高バレー）」に5年ぶりに徳島県代表として出場しました。渦の音クラブでは、有志が応援に参加しました。また、激励金を女子バレーボール部保護者会にお渡ししました。1回戦は、1月5日（土）に、安来高校（島根）と対戦し、接戦の末にセットカウント2対1で勝利しました。2回戦は、1 月 6 日（日）に国体優勝校の九州文化学院高校（長崎）と対戦しました。180 センチ以上のＶリーグ内定選手が 2 人もいる優勝候補の強豪相手に、善戦及ばずセットカウント 0 対 2 で敗れました。しかし、第 1 セットの最初は 5 対 3 でリードするなど、持てるチカラを発揮し、粘り強く拾うバレーができていたと思います。強豪相手に、精一杯の力を発揮した城南高校女子バレーボール部の選手たちに、拍手をおくりました。



４．母校、故郷のための支援・協力のお願い

（１）渦の音クラブによる母校部活動への支援

渦の音クラブでは、全国大会で上京した母校の部活動に支援を行っています（「春高バレー」への支援など）。一口１千円の渦の音クラブの年会費は、会員の皆様への連絡費用に留まらず、母校への支援金の原資ともなっておりますので、会費の納入を宜しくお願いします。

（２）城南高校後援会による母校部活動への支援と「同窓会報」の発行協力金

城南高校では各種部活動への支援を行う「城南高校後援会」が平成 13 年に発足し、PTA である松柏会、同窓生の交流を図る同窓会と連携して部活動への支援活動を行っています。後援会と本部同窓会のホームページも充実が図られ、インターハイへの遠征支援などを行っています。支援金の振り込み方法などの詳細は城南高校後援会の HP をご覧下さい。また、同窓会本部が発行している「同窓会報」は、先日は第 87 号（2013 年7月３日発行）も全卒業生（住所が判明している約2万5千人）が個別同窓生に郵送されております。「発行協力金」の案内が同封されていたと思いますので、ご協力宜しくお願いします。

（３）「ふるさと納税」による故郷徳島への支援

故郷徳島への支援を行う「ふるさと納税」制度も既に 5 年目を迎えました。徳島県のふるさと納税額は全国でも上位であり、徳島県人の故郷への「熱い想い」が伺えます。「ふるさと納税」は、徳島県等に郵便振り込み等で寄付金を振り込み、その寄附金のうち一定の額（所得により 3,800 円～4,850 円）を超える部分については、住民税の概ね 1 割を上限として所得税と合わせて控除されます。また、徳島県の場合は、広報誌「OURとくしま」1年分（年8回）、特産品のすだち、県立施設（近代美術館、文学書道館、渦の道など）ペア招待券などがお礼として送られるそうです。「渦の音クラブの集い」でふるさと納税のパンフレットをお渡しする予定ですので、ご協力宜しくお願いします。

５．事務局たより

我が家で伝統ある渦の音クラブの事務局をお引き受けして 3 年が過ぎました。至らない点も多々ありますこと御容赦下さい（個人宅のため連絡がメール、fax 中心となっております）。ホームページやブログに加え、フェイスブックなどのソーシャルネットワークも活用し、会員の皆さまとの連絡を密にしていきたいと考えておりますので、ご支援宜しくお願い申し上げます。なお、2013 年8月 11 日（日）に徳島で開催された同窓会本部総会には、今年も昨年に引き続き渦の音クラブから澤田会長が参加し、渦の音クラブの活動状況を報告するとともに、同窓会本部役員とのネットワークを深めました。

事務局：三橋浩志・稔子（昭和 59 年卒）　　発行：2013 年 9 月 1 日